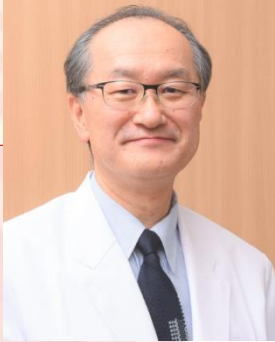


新年ご挨拶



一般財団法人大原記念財団 理事長
大原総合病院 院長 佐藤 勝彦

新年おめでとうございます。

昨年はコロナ変異株に苦しめられた1年でした。このような苦境の中、登録医の皆様から温かいご支援を賜り、感染対策しながら活躍するスタッフにとってこれほどまで勇気づけられることはありませんでした。心から感謝申し上げます。

さて、本年は開院130周年、財団設立70周年の節目にあたります。大原総合病院が新病棟となり4年目、昨年大原医療センターが3病棟体制に復活してグランドオープンしたことで急性期から回復期、精神、在宅医療までの法人内医療連携ケアシステムが整いました。患者さまにはPFMとして入院前から診療情報などをわかりやすく提供し、退院後を見据えた医療と生活の連携について相談に応じてすすめるなど多職種でのチーム医療を実践しています。

感染症流行にあっては、院内感染防止策を徹底して行っており、患者一人一人の感染リスクを評価しながら救急医療や専門医療を安全に行うよう努めております。登録医の皆様からのご要望をこれからもしっかりと受け止めて参りますので、何卒ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

コロナ感染症については治療薬が開発されるなど徐々に先が見える展開になってきました。皆様と共に再び自由にお会いできて楽しく語り合える日々が来ますことを願っております。



一般財団法人大原記念財団 大原総合病院 院長代行 小山 善久

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

地域の先生方や関連職員の皆様そして地域の住民の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのことと思います。

今、世界は2019年の年末から流行した新型コロナウイルス感染症の変異株オミクロンの拡大により感染者の急増がみられており、本邦でも年始早々に感染拡大による第6波が危惧されています。対策としては個々の感染防御はもちろん3回目のワクチン接種が進められています。当院においても、昨年にも増して新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、職員の安全を担保しつつ、一般・救急医療をレベルアップし、地域住民の皆様のニーズに応えるため、多くの方々のご期待に沿えるよう努力して診療に励んで参ります。

本年も皆様からのご指導をよろしくお願いいたします。最後に新型コロナウイルス感染症の収束をお祈りいたします。



一般財団法人大原記念財団 大原総合病院

副院長兼画像診断センター長
地域医療生活連携室管理者
健診予防センター長

森谷 浩史

新年あけましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染対応と東京オリンピック 2020、そして急ピッチに進められたワクチン接種など、攻守入り混じりの対策が医療に求められた年でした。年末には新種オミクロン株が流行し、イタチごっこの様相を呈しています。

日本対がん協会のまとめによると、2020年のがん検診受診者は前年に比べて約3割減っていたとのことです。集団検診の中止や内視鏡検査の延期・受診控えの影響が大きかったようです。結果的にがん診断数が1割ほど減少し、今後の進行がんの増加が懸念されています。実は、わたしどもの画像診断センター外来にご紹介いただいている肺がん症例も、前年と比して2021年は進行がん患者が増えた印象があります。コロナ禍のような社会的脅威がじわりじわりと個人の健康を蝕んでいることを実感させられています。そのような中で、福島市医師会で行っている個別検診は先生方の情熱と工夫により継続できました。粛々と日常診療を続けておられる先生方のご努力に改めて敬意を表します。

さて、健診予防センターでは土曜健診・日曜健診など、先生方のご要望にお応えできるようプログラムを組んでおります。各種オプション検査も用意しております。特に、PETがん検診（福島医大との共同事業）、肺がんCT検診（AMED研究事業）、長距離運転手のための脳MRI検診など画像による検診は、コロナ禍において、むしろ需要が増えております。今後も「先を行く手法」を取り入れてまいりますので、ぜひ大原総合病院をご活用いただければと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



一般財団法人大原記念財団 看護本部総看護部長兼大原医療センター看護部長 清野 伊奈美

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはご健勝にて新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の第5波が猛威を振るう中、医療圏域を越えて、行政・医療・福祉の各団体の皆様との連携で乗り越えてきた年であったと思います。

大原記念財団としても、救急医療体制の充実と共に、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種・発熱外来等、地域医療機関の皆様と共に取り組んでまいりました。

また、大原医療センターは昨年4月に2病棟体制から3病棟体制と拡充し、10月には回復期リハビリテーション病棟を2病棟体制としてスタートすることができました。チーム医療の充実を図り、高齢化社会での回復期病院に求められる役割が十分に担えるよう取り組んでおります。

少子高齢化社会が進む中で地域包括ケアシステム構築に向け、急性期機能と回復期機能、精神科リエゾンアプローチと在宅医療への更なる充実に向けて、法人内医療連携ケアシステムの充実を図り、地域の中核的医療機関としての使命が果たせるよう地域医療に貢献していきたいと思っております。

本年もどうぞご支援ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

大原記念財団の理念

人を愛し、病を究める

私たちは、すべての患者さまとご家族のために常に一歩先行く医療を探究し、優しさを持って最善を尽くす医療を実践することにより、地域から信頼される病院を目指します。

制作 大原総合病院 総合患者支援センター
発行者 一般財団法人大原記念財団
理事長 佐藤 勝彦
電話 024(526)0371 ダイヤルイン
FAX 024(526)0935
代表 024(526)0300
住所 福島市上町 6番 1号

大原記念財団職員行動規範 10カ条

私たちは、

1. 医療安全を確立し、安心と信頼を獲得します。
2. 命の尊厳を深く理解し、患者さまの権利を尊重します。
3. 優しさを持ち、気づきの医療を実践します。
4. 人間性豊かな医療人となるよう、常に自己研鑽します。
5. 新しいことへの挑戦し、質の高い医療を創造します。
6. 医療人としての誇りを持ち、如何なる時も最善を尽くします。
7. 医療情報の共有と活用を促進し、得られた情報は厳格に管理します。
8. 地域社会に支えられていることを認識し、医療連携を推進します。
9. 相互に敬意を払い、連携を密にして組織的に行動します。
10. 未来への発展のために、健全経営を目指して努力します。